

大好き！絵本

初瀬 恵美



新年あけまして
おめでとうございます
今年もよろしくお願いたします

今年は「うま年」ということで、馬が主人公の絵本『ぶどう畑のアオさん』をご紹介します。この絵本は私が大好きな絵本作家さんの一人である馬場のぼるさんの最後の作品となりました。今年から出版から25年の節目の年となります。

主人公のアオさんは、終始おだやかで嘘がつけない素直な性格。ある日夢にみたぶどう畑を探しにいくことにしましたが、途中でネコに出会い一緒に行くことになりました。そしてぶどう畑を見つけた二人。まだすっぱかったのでまた明日来ることになりました。ネコは、11匹のねこと見た目も性格もほぼ同じ。『ねえ、アオさん このぶどう畑、だれにも ないしょだよ。みんなに おしえちゃだめだよ』と二人じめしようとします。アオさんは『うん、うん、ないしょね』と同意しながらも次の日きつねに『どこへ いくの?』とたずねられたら『えーと、あのね、ないしょでね、ぶどう畑へいくとこ・・・』と答えてしまいます。それを聞いたきつねが『えっ ぶどう畑。わーい、ぶどう畑へ ぼくも つれてってー』と叫ぶと、その声を聞いて、他の動物たちが集まりました。もちろんネコはブンブンしています。でもアオさんは『あははは、みんなで たべたほうが ずっと おいしいよ』とこたえます。みんなでぶどう畑へ行くと、ぶどう畑にはオオカミがいて、畑の周りにはトゲトゲの柵ができていました。そして『えへん、だあれも はいっちゃ だめだよ。ここは、ぼくのぶどう畑だから』とこわい顔をしてアオさんたちにとどまりました。オオカミが『ガオガオガオツ』と脅すのでみんなは、かみつかれないうちに、ばらばらに逃げてしまいました。しかし、アオさんは一人だけ逃げずにいたのです。これにはオオカミもびっくり。『ぼくが こわくないのか』『こわかったら、にげろっ』と直接脅します。それを聞いたアオさんは『ああ、いま、にげるよ・・・』とでも逃げながら『ぶどう ひとりじゃ たべきれないよ』とか『たべすぎて おなか こわすよ』とオオカミに助言します。ですが、オオカミは独り占めしたいので言い返してばかり。しまいにはアオさんも怒って『おおかみくんのばか・・・』と言ったので、オオカミは怒って、アオさんをおいかけてきました。さて、その後アオさんはどうなるのか？アオさんと動物たちはぶどうを食べることができたのか？馬場さんワールドが広がります。

この絵本は各所に過去に出版された絵本のオマージュのような場面（挿絵）がでできます。もちろん完全に一緒ではなく、あの絵本のある場面・・・とふと懐かしさを思い出させてくれる挿絵があるのです。それがなんともいえず、嬉しくて不思議な気持ちになりました。さらに、馬場さんの描く絵本の登場人物（登場動物）は、怒っていても嫌がらせをしてもやさしいタッチで描かれているので、怖くなく、どことなくコミカルな感じになるも魅力の一つです。

また、アオさんの世界にはアオさんの絵本のコミュニティーが存在してお互いに名前呼び合う関係が存在しています。だからこそ、「内緒にしたい」とか「独り占めしたい」という感情があったり、互いに気遣う関係も絵本から垣間見ることができます。もし、馬場さんがご存命ならば続編ができていたのかな？と思わせてくれる絵本でした。『11ぴきのねこ』シリーズとは少し異なる世界観が広がる絵本です。ぜひ出版25年の節目のうま年にアオさんのおおらかさに癒されるこの絵本をご覧になられてみてはいかがでしょうか？

